



名古屋の偉人伝

No.32

越原春子(こしはらはるこ)の巻

ここがスゴイ！

名古屋女学校（現在の名古屋女子大学中学校・高等学校）の創設者にして、日本初の女性国會議員の一人。女性の教育や地位向上に一生を捧げました。



越原記念館（名古屋女子大学内）所蔵

こんな人生を送ってきました（経歴）

1885（明治18）年、岐阜県加茂郡東白川村越原（おっばら）で生まれる。
1904（明治37）年、いとこの内木玉枝（ないきたまえ）から学校の開設を手伝わないかと誘われる。父からの反対にあうも、強い気持ちで説得し、名古屋へ。開校した中京裁縫女学校で教員として働くうち、自分も女性のための学校を創りたいと思うように。
1915（大正4）年、夫の和（やまと）とともに名古屋女学校を開設。女性が家事をこなすのが当たり前前の時代、春子は少しでも家庭生活を便利にすることで、空いた時間を学びにあてられないかと思案。当時は着物にはかまが一般的だったが、通学服を洋装にして動きやすくするとともに、自らも着物の帯を改良してすばやく支度ができるようにした。
1946（昭和21）年、戦後第一回衆議院議員選挙に、女性が政治に参加する大切さを訴えて当選。憲法改正案特別委員会の委員に選ばれ、新しくできる日本国憲法の法案について、女性の権利に着目して審議した。新憲法の制定を見届けた後は、再び名古屋にて学校教育に携わる。
1959（昭和34）年、74歳で死去。
現在、名古屋女子大学内には「越原記念館」があり、春子の業績を今に伝えている。

もっとくわしく知りたいあなたに（参考文献）

- 『もえのぼる 越原春子伝』南部弘／著 越原学園 1995年
『春嵐 学園七十年史』越原学園七十年史編集委員会／編 越原学園 1985年
『新しき明日の来るを信ず はじめての女性代議士たち』岩尾光代／著 日本放送出版協会 1999年